

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町乙56-214
自己評価作成日	平成 21年 11月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接に有料老人ホームが5月にオープンし、共に協力しながら地域の方に受け入れていただけるよう積極的に働きかけている。また、近いうちに老人ホームと一緒に新聞を発行し地域の方に情報を提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は町内の清掃活動や盆踊りの準備などに積極的に協力し、利用者も地域の敬老会や運動会などの行事に参加して、地域との交流を深めている。管理者は地域の公民館で認知症に関する講話を行い、地域住民からも喜ばれている。毎月「家族便り」を個々の家族に送り、利用者の健康状態や生活の様子、ホームの行事などを報告している。家族からの要望や思いはあらゆる機会を通して聞き取るように努め、具体的にケアに活かしている。職員はミーティングやユニット会議で率直に意見を出し合い、代表者・管理者も交えて意識統一を図っている。利用者はクリスマス会、誕生日会、音楽療法などの楽しみももちながら、日々の生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	すみれの丘
(ユニット名)	そら
記入者(管理者)	
氏名	岩城 恵子
評価完了日	21年 11月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット独自の理念を話し合って作り、職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、理念を念頭に日々ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) ホーム独自「その人らしい生活を大切にし、充実した生活を送れるようサポートする」という理念を全職員で作成し、さらにユニットごとに基本方針を定め、職員間で共有しながら日々の実践につなげている。</p>	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念について全職員で改めて検討し、ケアの実践に活かすとともに、地域への啓発にも役立てることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議では、様々な交流の場を紹介していただき参加している。また、町内清掃の参加や祭りには神輿を担ぐなど事業所からも積極的に地域の一人としての役割を果たすよう努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは自治会に加入し、職員は町内の清掃や盆踊りの準備などに協力したり、地域のバレー大会にも出場して、地域との付き合いを大切にしている。利用者は地域の敬老会や運動会などの行事に楽しんで参加しながら、地域との交流を深めている。管理者は、公民館で認知症に関する講話を行い、住民から喜ばれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 町内からの要請もあり、公民館で認知症の人の理解や支援の方法を話し、その場をきっかけに地域の高齢者等からの相談も受け付けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、意見交換や情報交換も行っている。また、入居者様にも会議に参加していただき、ホームでの生活について話しをしていただいた。	参加者がどのような立場から発言しているのか等がよりわかりやすいように、記載方法を工夫することを期待したい。
			(外部評価) 2か月ごとに開催し、利用者、家族代表者、地域代表者（民生委員、町内会長など）、市担当者、地域包括支援センターなどを交えて意見を出し合い、ケアに活かせる提案は即実践につなげている。自己及び外部評価を開示し、改善点について話し合いを行っている。議事録は、毎回詳細に記録している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市長村担当者には、事業所の実情やケアサービスの取組みを運営推進会議の際など積極的に伝えている。また、電話や直接訪ねたりし相談にもものっていただいたりしている。	
			(外部評価) 日頃から市担当者と直接会って助言をもらったり、疑問点などは電話で確認するなどしている。市担当者がホームを訪れる際には、生活保護を受給している方の状況等を伝え、情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての資料を作成し、勉強会も行っている。ベランダは自由にでられるようにしている。しかし、2階の玄関扉の横は階段となっており、職員間で工夫を重ねたが、入居者家族とも相談し、安全性を重視し施錠する予定となっている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる言動を正しく理解しており、利用者が自由でのびやかな生活を送れるよう支援している。1階の玄関は昼間は施錠していないが、2階の玄関は階段もあり安全な生活を確保するため、止むを得ず昼間も施錠しているが、家族には説明して承認を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についての勉強会は、会議の時間を利用して行っている。日常においても言葉による虐待、暴力による虐待、ネグレクトなどの指導を受け、心がけている。入浴時や日頃の介護時、皮膚の状態の観察も行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会や地域包括支援センターで学ぶ機会に管理者や職員は参加し、必要時は活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約又は解約時の際には、ご家族等の不安や疑問を聞き、十分な説明を行い理解していただくよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 随時、来所時にはこちらから積極的に声かけし、意見や要望をお聞きするようになっている。また、玄関に意見箱を設置し、自由に投稿できるようにしている。 (外部評価) 定期的に家族への便りを送り、利用者の健康状態や生活の様子、ホームの行事などを伝えており、また家族からもできる限り要望や意見を伝えてもらっている。家族が来訪した際には情報交換に努め、また電話等でも話し合っている。ホーム内及び外部の相談窓口を明記している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のショートミーティングや月1回のユニット会議の際に、職員の意見や提案を聞き、本部で二週間毎に開催される管理者会議にその内容を代表者に報告している。 (外部評価) 職員は、毎日のミーティングや毎月のユニット会議で率直な意見や思いを話し合い、管理者はその内容を2週間ごとに法人本部で開催される管理者会議で代表者に伝え、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別の面談を行い、各自がやりがいのある職場環境・条件の整備に配慮されるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員に等しく外部研修に参加するよう促している。また、研修に参加した職員はその内容をまとめ伝え、知識や情報を同水準で共有するようにしている。ホーム内の勉強会は、月1回ユニット会議の際に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会に参加し、他事業者と意見交換を行っている。また、すみれグループには他に3つにグループホームと2つの有料老人ホームがあり、2週間毎に開催される会議を通じて意見交換も行っている。内容はすべて職員に伝え、情報を共有している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 生活歴や既往歴を聞いた上で本人の話しを傾聴、行動を把握し、今不安に思っていること、困っていることを探り、解決できるような生活の中で見つけ出すようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や不安に思っていることは入念に聞き、家族が納得されるまで話し合う機会を設け、信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期段階で「できるサービス」と「できないサービス」を説明し、ご理解していただくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとり、何が出来るかを見極めた上で自然な形で家事等参加できるようにしている。又レクリエーション時間を利用し、話題を提供したり、されたりしながら信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や電話にてできるだけ情報や要望を聞き、家族の辛さも理解した上で、一緒に考え協力を得ながら、共に支えていけるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や病院なども希望により引き続き利用していただいている。また、電話での取り次ぎや面会は自由にしていただいている。普段の会話の中でさりげなく話題にし、認識持続に努めている。 (外部評価) 友人・知人が来訪した際にもゆっくり会話を楽しんでもらえるよう配慮している。また、馴染みの場所等へは定期的に車で出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士がトラブルに発展しそうな時は、職員がさりげなく会話に入ることのできるよう努めている。一緒にレクリエーションや家事に参加することで良い関係が保てている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所へサマリー提供し、環境変化を最小限にしている。契約が終了しても、必要に応じて相談のり、支援できる態勢を作っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話の中より利用者の声を聞くようにしている。少しでも変化があった場合は申し送りをし、ミーティングで話し合えるようにしている。 (外部評価) 職員は、利用者に積極的に声をかけ、可能な限り一対一でゆっくり話せる場を設けて、要望や思いを聞き取るよう努めている。困難な場合は表情や行動等からも把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴シートを作り、ケアプランに反映できるようにしている。また、毎日ケアプランチェック表により経過を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録を細かく記録し、申し送りなどで現状把握し、毎日のミーティングで問題点や自立支援できることを話し合い、実行するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 職員一人ひとりが担当を持ち、情報を共有した上でそれぞれ意見を出し合い本人や家族の希望を取り入れながら作成している。</p> <p>(外部評価) 日々の記録を基に、各担当者が原案を作成し、さらに全職員が十分話し合って介護計画を作成している。本人や家族からも意見や要望を聞き、説明して同意を得ている。基本的には3か月毎に見直しを行なっているが、生活の様子や状態の変化によっては柔軟に見直ししている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) できるだけ具体的に（会話や精神面・身体面等）記入するようにし、職員間で情報を共有しながらケアに活かすようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 通院介助や買い物など現状のホームでできる限りの柔軟な対応をしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の行事参加にも参加し、地域資源との協働を図っている。図書館・スーパー・公園等個人別や全体で行けるようにしている。また、入居者様が外に出られてわからなくなった時には、町内放送をしていただけるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃から、本人や家族等の希望を大切にしている。入居前は、馴染みの病院に行かれる方もおられたが、現在はほとんどの方が医療連携をとっているクリニックの往診を受けている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいるが、ほとんどの利用者が2週間毎に事業所の協力医療機関の往診を受けている。血液検査も定期的に行い、健康管理には十分配慮している。また、他の専門医の受診が必要な場合には協力医療機関と連携して適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員にも随時相談しているが、往診表を作り、Drに相談したいことを書き込み、適切な往診が受けれるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際に、できるだけ面会にいき入院先の看護師に相談したり、家族とも密に連絡をとり情報を得ている。また、ムンテラの際には職員も家族の希望があれば、一緒に参加させていただいている。またその旨をかかりつけ医に報告するようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合のその後の方針については、事前に家族と十分に話し合いを行っている。その時、ホームでできることについて家族に説明し了解を得ている。	
			(外部評価) 重度化や終末期については入居時に本人及び家族と相談し、意思を尊重しながら対応している。看取りを希望する場合は、マニュアルにそった対応を基本に、家族・医師・看護師・職員が密に連携しながらすすめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についてはホーム内で勉強会を行ったり、外部研修にも参加し実践に役立つようにしている。夜勤の職員が新人の場合はもうひとつのユニットにベテラン職員を配置し、緊急時には的確な対応ができるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の署員に来ていただき防災訓練を行っている。また、火元や避難場所の設定も行っている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を行い、うち1回は消防署の指導を受けながら夜間も想定した訓練を実施している。マニュアルを整備し、事務室に備えている。近隣住民への協力依頼を続けているが、十分な協力体制が整うまでには至っていない。	地域住民への協力依頼を継続し、また地域の自主防災組織とも連携を図り、実際の避難を想定して訓練に参加してもらうなどの協力体制を築くことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉のかけ方について気になることがあれば、お互い指摘し合い、注意している。排泄の介助には、特にプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 利用者には人生の先輩として尊敬の念を持って接し、優しくケアにあたっている。個人情報の取り扱いには全職員が十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り、「はい」「いいえ」で答えられる質問を避け、選択肢の多いなかで決めていただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活リズムを尊重し支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪型や服装・清潔などに気を配り、本人の希望に添うよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の能力や意思に合わせ無理のない程度に参加していただいている。また、本人の希望に沿って職員と一緒に外食する機会も作っている、	
			(外部評価) 利用者の力や希望に応じて下膳等をお願いしている。日々の基本的な献立はたてているが、利用者の好みや希望に合わせて変更することもある。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気がある。職員は、介助の必要な利用者傍に座り、ゆったりと支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態により、食事量や食事内容を変えている。必要時には水分量を記録し健康面に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、口腔ケアを行い、一人ひとりにあった支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンをつかみ、訴えられない方には時間誘導しできるだけトイレでの排泄を促し、おむつの使用を減らすよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声をかけて誘導するなど、利用者に応じた支援を行っている。可能な限り、おむつの使用を減らしてトイレで排泄してもらえるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分補給またヨーグルトや植物繊維の多い食べ物を摂っていただき、薬や浣腸などに頼らないよう努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯を決めず、本人の意思決定を大切にし、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望する時間帯に合わせて、基本的には週に2～3回以上の入浴ができるよう支援している。羞恥心や恐怖心をもたないように、利用者の心情に十分配慮しながらゆったりとした支援に努めている。リフト浴の設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけレクや散歩などの活動的な日々を過ごしていただくことにより熟睡できるよう支援している。また、使い慣れた寝具を使っていただくことで安心して眠れるようにしている。下肢のマッサージ等も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作成し、わかり易いようにしている。又服薬用法が変わった時は随時口頭や記録などで申し送りしている。病状変化があった時は早急にかかりつけ医に相談、指示を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) できる限り、本人の生活歴を大切に支援の取り組みに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子でも自由に散歩できるよう敷地内は整備されている。また月に数回外出支援に努めている。地域行事である運動会や盆踊り大会には地域の方が優先的に席を確保して下さる。	
			(外部評価) ホーム周辺の安全な場所を散歩している。車で花見や公園等に出かけたり、外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭の管理が可能な方は家族の了解を得、所持していただき、自由に使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分の電話を所持されている方もあり、電話の取次ぎや手紙を書く支援、ポストの投函も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下、リビングは広々としており、落ち着いた雰囲気である。また、浴室やトイレは常に清潔を保つようにしている。リビングの壁画コーナーには季節感を取り入れている。	
			(外部評価) 居間や食堂は明るく、海を臨む窓からは自然の光が射し込み、心が和む。室内には外出時の写真や作品を飾り、見やすいカレンダーや時計を備え、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファをおいてくつろげるスペースを設けている。また、ベランダにはベンチを置き、景色を眺めたり、お茶を飲んだりしゆっくりとした時間をもてるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室では、入居前からの使い慣れた物や入居後買い揃えたりした物もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) タンスやベッドなどはホームの備え付けであるが、馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、自分の部屋らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者の希望に応じて畳の部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の残存機能を活かし、風呂場に手すりをつけるなど、自立した生活が送れるよう環境づくりに努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町乙56-214
自己評価作成日	平成 21年 11月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接に有料老人ホームが5月にオープンし、共に協力しながら地域の方に受け入れていただけるよう積極的に働きかけている。また、近いうちに老人ホームと一緒に新聞を発行し地域の方に情報を提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は町内の清掃活動や盆踊りの準備などに積極的に協力し、利用者も地域の敬老会や運動会などの行事に参加して、地域との交流を深めている。管理者は地域の公民館で認知症に関する講話を行い、地域住民からも喜ばれている。毎月「家族便り」を個々の家族に送り、利用者の健康状態や生活の様子、ホームの行事などを報告している。家族からの要望や思いはあらゆる機会を通して聞き取るように努め、具体的にケアに活かしている。職員はミーティングやユニット会議で率直に意見を出し合い、代表者・管理者も交えて意識統一を図っている。利用者はクリスマス会、誕生日会、音楽療法などの楽しみももちながら、日々の生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	すみれの丘
(ユニット名)	うみ
記入者(管理者)	
氏名	岩城 恵子
評価完了日	21年 11月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット独自の理念を話し合っ作り、職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、理念を念頭に日々ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) ホーム独自「その人らしい生活を大切にし、充実した生活を送れるようサポートする」という理念を全職員で作成し、さらにユニットごとに基本方針を定め、職員間で共有しながら日々の実践につなげている。</p>	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念について全職員で改めて検討し、ケアの実践に活かすとともに、地域への啓発にも役立てることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議では、様々な交流の場を紹介していただき参加している。また、町内清掃の参加や祭りには神輿を担ぐなど事業所からも積極的に地域の一員としての役割を果たすよう努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは自治会に加入し、職員は町内の清掃や盆踊りの準備などに協力したり、地域のバレー大会にも出場して、地域との付き合いを大切にしている。利用者は地域の敬老会や運動会などの行事に楽しんで参加しながら、地域との交流を深めている。管理者は、公民館で認知症に関する講話を行い、住民から喜ばれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 町内からの要請もあり、公民館で認知症の人の理解や支援の方法を話し、その場をきっかけに地域の高齢者等からの相談も受け付けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、意見交換や情報交換も行っている。また、入居者様にも会議に参加していただき、ホームでの生活について話しをしていただいた。	
			(外部評価) 2か月ごとに開催し、利用者、家族代表者、地域代表者（民生委員、町内会長など）、市担当者、地域包括支援センターなどを交えて意見を出し合い、ケアに活かせる提案は即実践につなげている。自己及び外部評価を開示し、改善点について話し合いを行っている。議事録は、毎回詳細に記録している。	参加者がどのような立場から発言しているのか等がよりわかりやすいように、記載方法を工夫することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市長村担当者には、事業所の実情やケアサービスの取組みを運営推進会議の際など積極的に伝えている。また、電話や直接訪ねたりし相談にもものっていただいたりしている。	
			(外部評価) 日頃から市担当者と直接会って助言をもらったり、疑問点などは電話で確認するなどしている。市担当者がホームを訪れる際には、生活保護を受給している方の状況等を伝え、情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての資料を作成し、勉強会も行っている。施錠はせず、いつでも自由に散歩やベランダに出ることができ、拘束のない生活を支援している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる言動を正しく理解しており、利用者が自由でのびやかな生活を送れるよう支援している。1階の玄関は昼間は施錠していないが、2階の玄関は階段もあり安全な生活を確保するため、止むを得ず昼間も施錠しているが、家族には説明して承認を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についての勉強会は、会議の時間を利用して行っている。日常においても職員間で話し合い、未然に防いでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会や地域包括支援センターで学ぶ機会に管理者や職員は参加し、必要時は活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約又は解約時際には、ご家族等の不安や疑問を聞き、十分な説明を行い理解していただくよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 随時、来所時にはこちらから積極的に声かけし、意見や要望をお聞きするようになっている。また、玄関に意見箱を設置し、自由に投稿できるようにしている。 (外部評価) 定期的に家族への便りを送り、利用者の健康状態や生活の様子、ホームの行事などを伝えており、また家族からもできる限り要望や意見を伝えてもらっている。家族が来訪した際には情報交換に努め、また電話等でも話し合っている。ホーム内及び外部の相談窓口を明記している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のショートミーティングや月1回のユニット会議の際に、職員の意見や提案を聞き、本部で二週間毎に開催される管理者会議にその内容を代表者に報告している。 (外部評価) 職員は、毎日のミーティングや毎月のユニット会議で率直な意見や思いを話し合い、管理者はその内容を2週間ごとに法人本部で開催される管理者会議で代表者に伝え、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別の面談を行い、各自がやりがいのある職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員に等しく外部研修に参加するよう促している。また、研修に参加した職員はその内容をまとめ伝え、知識や情報を同水準で共有するようにしている。ホーム内の勉強会は、月1回ユニット会議の際に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会に参加し、他事業者と意見交換を行っている。また、すみれグループには他に3つにグループホームと2つの有料老人ホームがあり、2週間毎に開催される会議を通じて意見交換も行っている。内容はすべて職員に伝え、情報を共有している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 生活歴や既往歴を聞いた上で本人の話しを傾聴、行動を把握し、今不安に思っていること、困っていることを探り、解決できるような生活の中で見つけ出すようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や不安に思っていることは入念に聞き、家族が納得されるまで話し合う機会を設け、信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期段階で「できるサービス」と「できないサービス」を説明し、ご理解していただくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が生活する上で「できること」と「できないこと」を見極め、家事などのお手伝いをしていただいた時には、必ず感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や電話にて、できるだけ情報や要望を聞き、家族の辛さも理解した上で、一緒に考え協力を得ながら、共に支えていけるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や病院なども希望により引き続き利用していただいている。また、電話での取り次ぎや面会は自由にしていただいている。友人宛に書いた手紙と一緒にだすなどの支援もしている。 (外部評価) 友人・知人が来訪した際にもゆっくり会話を楽しんでもらえるよう配慮している。また、馴染みの場所等へは定期的に車で出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士がトラブルに発展しそうな時は、職員がさりげなく会話に入ることのできるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所へサマリー提供し、環境変化を最小限にしている。契約が終了しても、必要に応じて相談のり、支援できる態勢を作っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にしている。入浴の希望日や食事の希望についてできるだけ対応している。 (外部評価) 職員は、利用者に積極的に声をかけ、可能な限り一対一でゆっくり話せる場を設けて、要望や思いを聞き取るよう努めている。困難な場合は表情や行動等からも把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活暦シートを作り、ケアプランに反映できるようにしている。また、毎日ケアプランチェック表により経過を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録を細かく記録し、申し送りなどで現状把握し、毎日のミーティングで問題点や自立支援できることを話し合い、実行するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員一人ひとりが担当を持ち、情報を共有した上でそれぞれ意見を出し合い本人や家族の希望を取り入れながら作成している。	
			(外部評価) 日々の記録を基に、各担当者が原案を作成し、さらに全職員が十分話し合っって介護計画を作成している。本人や家族からも意見や要望を聞き、説明して同意を得ている。基本的には3か月毎に見直しを行なっているが、生活の様子や状態の変化によっては柔軟に見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) できるだけ具体的に（会話や精神面・身体面等）記入するようにし、職員間で情報を共有しながらケアに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院介助や買い物など現状のホームでできる限りの柔軟な対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事参加にも参加し、地域資源との協働を図っている。また、入居様が外に出られてわからなくなった時には、町内放送をしていただけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃から、本人や家族等の希望を大切にしている。入居前は、馴染みの病院に行かれる方もおられたが、現在はほとんどの方が医療連携をとっているクリニックの往診を受けている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいるが、ほとんどの利用者が2週間毎に事業所の協力医療機関の往診を受けている。血液検査も定期的に行い、健康管理には十分配慮している。また、他の専門医の受診が必要な場合には協力医療機関と連携して適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員にも随時相談しているが、往診表を作り、Drに相談したいことを書き込み、適切な往診が受けれるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際に、できるだけ面会にいき入院先の看護師に相談したり、家族とも密に連絡をとり情報を得ている。また、ムンテラの際には職員も家族と一緒に参加させていただいている。またその旨をかかりつけ医に報告するようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合のその後の方針については、事前に家族と十分に話し合いを行っている。その時、ホームでできることについて家族に説明し了解を得ている。	
			(外部評価) 重度化や終末期については入居時に本人及び家族と相談し、意思を尊重しながら対応している。看取りを希望する場合は、マニュアルにそった対応を基本に、家族・医師・看護師・職員が密に連携しながらすすめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についてはホーム内で勉強会を行ったり、外部研修にも参加し実践に役立つようにしている。夜勤の職員が新人の場合はもうひとつのユニットにベテラン職員を配置し、緊急時には的確な対応ができるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の署員に来ていただき防災訓練を行っている。また、火元や避難場所の設定も行っている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を行い、うち1回は消防署の指導を受けながら夜間も想定した訓練を実施している。マニュアルを整備し、事務室に備えている。近隣住民への協力依頼を続けているが、十分な協力体制が整うまでには至っていない。	地域住民への協力依頼を継続し、また地域の自主防災組織とも連携を図り、実際の避難を想定して訓練に参加してもらうなどの協力体制を築くことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉のかけ方について気になることがあれば、お互い指摘し合い、注意している。排泄の介助には、特にプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 利用者には人生の先輩として尊敬の念を持って接し、優しくケアにあたっている。個人情報の取り扱いには全職員が十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り、「はい」「いいえ」で答えられる質問を避け、選択肢の多いなかで決めていただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活リズムを尊重し支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪型や服装・清潔などに気を配り、本人の希望に添うよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の能力や意思に合わせ無理のない程度に参加していただいている。また、本人の希望に沿って職員と一緒に外食する機会も作っている、 (外部評価) 利用者の力や希望に応じて下膳等をお願いしている。日々の基本的な献立はたてているが、利用者の好みや希望に合わせて変更することもある。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気がある。職員は、介助の必要な利用者傍に座り、ゆったりと支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態により、食事量や食事内容を変えている。必要時には水分量を記録し健康面に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、口腔ケアを行い、一人ひとりにあった支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンをつかみ、訴えられない方には時間誘導しできるだけトイレでの排泄を促し、おむつの使用を減らすよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声をかけて誘導するなど、利用者に応じた支援を行っている。可能な限り、おむつの使用を減らしてトイレで排泄してもらえるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分補給またヨーグルトや植物繊維の多い食べ物を摂っていただき、薬や浣腸などに頼らないよう努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯を決めず、本人の意思決定を大切にし、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望する時間帯に合わせて、基本的には週に2～3回以上の入浴ができるよう支援している。羞恥心や恐怖心をもたないように、利用者の心情に十分配慮しながらゆったりとした支援に努めている。リフト浴の設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけレクや散歩するなどの活動的な日々を過ごしていただくことにより熟睡できるよう支援している。また、使い慣れた寝具を使っておくことで安心して眠れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作成し、わかり易いようにしている。又服薬用法が変わった時は随時口頭や記録などで申し送りしている。病状変化があった時は早急にかかりつけ医に相談、指示を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) できる限り、本人の生活歴を大切にした支援の取り組みに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子でも自由に散歩できるよう敷地内は整備されている。また月に数回外出支援に努めている。地域行事である運動会や盆踊り大会には地域の方が優先的に席を確保して下さる。	
			(外部評価) ホーム周辺の安全な場所を散歩している。車で花見や公園等に出かけたり、外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭の管理が可能な方は家族の了解を得、所持していただき、自由に使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分の電話を所持されている方もあり、電話の取次ぎや手紙を書く支援、ポストの投函も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下、リビングは広々としており、落ち着いた雰囲気である。また、浴室やトイレは常に清潔を保つようにしている。リビングの壁画コーナーには季節感を取り入れている。	
			(外部評価) 居間や食堂は明るく、海を臨む窓からは自然の光が射し込み、心が和む。室内には外出時の写真や作品を飾り、見やすいカレンダーや時計を備え、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファをおいてくつろげるスペースを設けている。また、ベランダにはベンチを置き、景色を眺めたり、お茶を飲んだりしゆっくりとした時間をもてるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室では、入居前からの使い慣れた物や入居後買い揃えたりした物もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) タンスやベッドなどはホームの備え付けであるが、馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、自分の部屋らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者の希望に応じて畳の部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の残存機能を活かし、風呂場に手すりをつけるなど、自立した生活が送れるよう環境づくりに努めている。	